

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用方策委員会
VHF/UHF帯電波有効利用作業班
放送グループ(第2回)議事要旨(案)

1 日時

平成19年3月22日(木)10時00分～12時00分

2 場所

総務省1101会議室

3 出席者(敬称略)

(総務省)小泉周波数調整官

(構成員)黒田放送G代表(NHK)、増田マルチメディア放送G代表(MJP)、
杉田アナログ放送G代表(JCBA)、小川デジタルラジオ放送Gサブ(DRP)、
放送G構成員

4 議題

- (1) 第1回放送グループ会合のまとめ
- (2) 第1回VHF帯共用検討グループ会合について
- (3) 放送グループに課せられた課題について
 - ア サービスラインナップの考え方
 - イ 事業性について
- (4) 今後のスケジュール

5 議事要旨(敬称省略)

- (1) 第1回放送グループ会合のまとめ及び第1回VHF帯共用検討グループ会合について、黒田放送代表から説明があった。
- (2) 「サービスラインナップの考え方」について黒田代表から、説明があった。
戸田(藤代理) 具体的なサービスラインナップについては、デジタルラジオニュービジネスフォーラムにおいて、さまざまなサービスを各WGに分かれて調査し、データ豊富にとりそろっているの、情報をいくらでも出せるのでよろしく願いたい。
黒田 ほかにもいろいろとフォーラムがあり、研究が進められていると聞いているので、いろいろと情報等があれば、寄与してほしい。

(3) 「事業性について」増田マルチメディア放送G代表から説明があった。

佐々木 サービスラインナップのメディアの位置付けは、今回提案するものはいろいろなものを取り込めいろいろなビジネスモデルがあると位置付けるため、可能であれば無料、有料でサービスが現在提供されているという状況がわかると良いと思う(スライド2、3)。

黒田 メディアの位置付けで有料、無料の区別をつけられるか難しいところがあるが、事業性の観点のところでは考慮する場合には、両面性を持っているということを留意してまとめる必要がある。いずれにせよ、無料といってもコンテンツを配るのが無料であって、何らかの形で収入を得ている。そういった事業性の視点については、まとめの時に指摘していただきたいし、照会していきたい。

佐々木 今回の資料は、送り側の視点が強いが、国民のニーズ、享受される側からの視点が必要だと思うので、取り纏めの際に考慮してほしい。

(4) 今後のスケジュール

黒田代表から、放 ad2-6 に基づき説明があった。

小泉 28日の作業班は、残された課題について報告し、そこで残されたものについて4月に検討してもらい、4月末または5月上に答申案としてとりまとめ、5月のパブコメに掛けた後、できれば6月に答申をまとめていきたい。

黒田 4月中旬ぐらいまでに方向性が出せないと厳しいと思うがいかがか。

小泉 他のGの進捗を見ないと、確定できない。資料をまとめる際は、ご協力をお願いしたい。今回の資料を含め、定量的な詰めという形での報告をお願いしたい。

以上

【配布資料】

資料 2022-VU 作-放 ad2-1	前回までのサマリー	(放送G代表)
資料 2022-VU 作-放 ad2-2	放送グループ(第1回)議事要旨	(放送G代表)
資料 2022-VU 作-放 ad2-3	VHFグループ(第1回)議事要旨	(放送G代表)
資料 2022-VU 作-放 ad2-4	サービスラインナップの考え方	(放送G代表)
資料 2022-VU 作-放 ad2-5	放送G検討対象サービスの事業性	(メディアフロンティア)
資料 2022-VU 作-放 ad2-6	今後のスケジュール	(放送G代表)